



「立山黒部」世界ブランド化推進会議 第4回会議資料



平成30年12月2日
富山県
観光・交通・地域振興局
生活環境文化部

「立山黒部」世界ブランド化 会議・WGの開催状況

平成29年度

○6月 1日

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」・各プロジェクトの推進体制(責任者・関係者)とスケジュールイメージを共有
(東京開催)

＜この間ワーキンググループを3回開催＞

○10月20日

第2回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」・各プロジェクトの進捗報告と「立山黒部」のブランドコンセプト等について議論
(富山開催:併せて現地視察も実施)

＜この間ワーキンググループを1回開催＞

○3月26日

第3回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」・「立山黒部」のブランドコンセプト及び各プロジェクトの進捗状況について議論
(東京開催)



現地視察(黒部)



現地視察(立山)



第3回推進会議

平成30年度

○12月2日<本日>

第4回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」・各プロジェクトの進捗状況を踏まえ委員からご意見をいただく
(富山開催)

「立山黒部」世界ブランド化 ブランドコンセプト

第3回会議の「立山黒部の自然に対する畏敬の念をブランドコンセプトに入れるとよい」という意見を反映（下線部を修正）

（第3回会議案）奇跡の自然と、それに挑戦し共に歩んできた…

奇跡の自然を畏敬し、

同時にこうした自然に挑戦し、共に歩んできた人々の物語

訪れる度に味わえる感動・体験を世界へ、未来へ

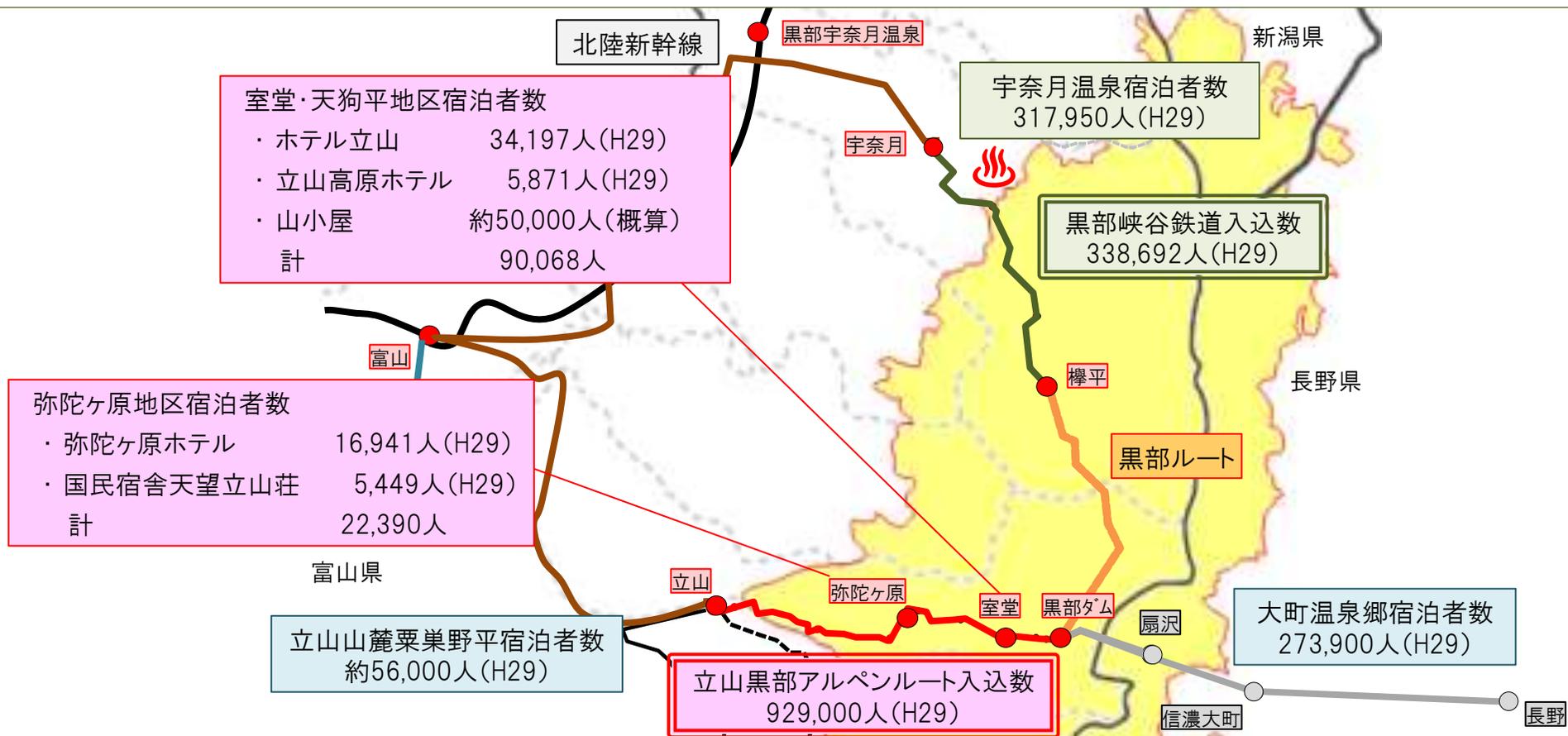
前段は「立山黒部」が持つ価値を表現

- 「立山黒部」の根源的の魅力は「自然」にあり、先進的な環境保全活動が行われてきた
- 奇跡の自然を活かし、「歴史」「文化」「産業」「防災」といった多種多様な魅力が築き上げられた
- 神々が宿る山とされ、人々の畏敬・信仰の対象（立山信仰）としても共に歩んできた
- 時代のニーズ（環境保全・防災対策など）に応じ、先人たちが先駆的に挑戦し、共生してきた軌跡でもある

後段は「立山黒部」が目指すべき姿・ビジョンを表現

- 日本はもとより、「立山黒部」の自然を畏敬し、憧れ、愛し、歴史・文化・産業・防災などの魅力に知的な好奇心を持つ世界中の人々に、「行ってみたい」「また来たい」と思ってもらえるよう、様々な目的・関心に応えることができる多様性を備えた観光地
- 現世代のみならず、未来の人たちにも「立山黒部」の感動・体験を味わってもらえるよう、根源的の魅力である豊かな自然環境を保全する取組みを持続可能な形で継続するため、保全と利用の好循環を生み出す

「立山黒部」エリアの入込・宿泊者数の状況



立山黒部アルペンルートの入込数929千人に対して、①ルート通り抜けの人は約460千人(約49.5%) ②富山県側から入り室堂で折り返す人は約173千人(約18.7%) ③長野県側から入り黒部ダムで折り返す人は約153千人(約16.5%) 合計約786千人(約84.7%)。また、室堂・天狗平・弥陀ヶ原地区の宿泊者数は約112千人。

→ 現在はルートの通り抜けや室堂・黒部ダムで折り返していく人が多く、滞在型・体験型観光に課題がある。

(参考1) 立山山麓栗巣野平の宿泊者数: 約56千人、大町温泉郷の宿泊者数: 約274千人

(参考2) 黒部峡谷鉄道の入込数約339千人に対して、宇奈月温泉の宿泊者数は約318千人(93.9%)

・スイス・ツェルマットでは、年間宿泊者は延べ約200万泊。欧州のリゾートでは長期(1~2週間)滞在が主流。

・滞在化=時間消費のしくみ(地域内のアクティビティ等)が充実している。多様なお客様に対応できる宿泊・受入環境が整備されている。

「立山黒部」世界ブランド化 プロジェクト

※赤文字:本日の説明プロジェクト 16プロジェクト

上質な滞在環境の整備

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルートの営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 既存宿泊施設の高付加価値化、ハイグレード宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ

- 07 アルペンルートの早期開業
- 08 アルペンルートの冬季営業
- 09 黒部峡谷鉄道の冬季営業
- 10 ヘリスキーの企画・実施
- 11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会の周知強化等

顧客層にあわせた受入環境の整備

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内の充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保

- 17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ
- 18 立山カルデラロープウェイ
- 19 黒部峡谷ロープウェイ
- 20 宇奈月温泉街の賑わい創出

自然環境の適正利用

- 21 登山道の整備
- 22 環境意識の啓発

自然環境の保全

- 23 山岳トイレの整備
- 24 外来植物除去活動の推進
- 25 利用調整地区の導入の検討
- 26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全

- 27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

01 混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、まずは室堂ターミナル(繁忙期における混雑状況が最も著しい場所)において、富山らしい食や優れた景観が楽しめるオープンテラスの設置を検討し、平成30年夏ごろからの運営開始を目指す。
- あわせて、室堂ターミナル以外の場所においても設置を検討。



混雑する室堂ターミナル

◎ 検討・取組状況

※立山黒部貫光において検討

① 室堂ターミナル屋上に展望休憩スペースを試験的に設置(7月28日～)

- 展望スペースの有効活用につなげるため、ホテル立山内のティーラウンジりんどうにおいて、**テイクアウト販売を実施**(7/28～8/31) ※「立山玉殿の湧水」を使用した水出しコーヒー等

② H30. 7月に黒部平駅屋上にパノラマテラスをオープン

- 休憩スペースとして、テーブル3台・いす12脚を設置。後立山連峰などの大自然を360度眺望できる。
- 7月14日(土)にオープンイベントを実施。「立山玉殿の湧水」を使用した地ビール「星の空」を生樽で販売。

① 室堂ターミナルの実施状況



※テイクアウト販売実績(7/28～8/31)

飲み物類 (水出しコーヒー、生ビール 等)	食べ物類 (アルプスカレー 等)
173個	16個

② 黒部平駅の実施状況



オープンイベントの様子



生ビール販売実績:2日間(7/14・15)で470杯

◎ 今後の検討事項

● 今季の実施状況を踏まえ、内容の充実を検討

- 試験的な設置による課題・効果を検証し、本格的な設置を検討
- 混雑の生じる駅(美女平等)の食事・休憩スペースの充実を検討
- 観光客の満足度向上に向け、「富山らしい」食事など、食事提供内容の充実を検討

立山

短期

WG

02 アルペンルートの営業時間拡大

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 安全確保や環境保全に配慮しつつ、営業時間の拡大範囲や拡大方法を検討
- 早朝や夕方、夜の魅力を活かした滞在プログラムを検討



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景



混雑する立山駅

◎ 検討・取組状況

- 日の出時刻の早い繁忙日(梅雨明け～お盆)に、**現在の交通規制の範囲内で、営業時間の試験的前倒し**を実施



8月11日午前5時30分頃 立山駅の様子



E-SORA「立山パノラマバス」車内

○立山ケーブルカー営業時間の前倒し

8月10日 立山駅 7時発 → **6時40分発**

8月11日 立山駅 6時発 → **5時40分発** 初の試み

座席上部がガラス張りで、アルペンルートの雄大な大自然を車内から楽しめるバス

イーソラ

○E-SORA「立山パノラマバス」の運行による営業時間の前倒し

8月7日～10日 **4日間**

立山駅 7時発 → **6時30分発**
(ケーブルカー始発便)

※繁忙期の混雑緩和に向けた その他の取組み

○立山駅発の臨時バスの増便

・立山ケーブルカーの待ち時間解消のため、臨時バス(立山駅～室堂ターミナル)を増便

H29:31台 ⇒ H30:48台(17台増便)

「立山黒部」繁忙期ボトルネック解消事業

・臨時バスの運行に係る経費の一部を支援(1/3補助)



GW期間中の運行(4/29、4/30、5/3、5/5)

・待ち時間(最長)

H29:5時間 ⇒ H30:2.5時間

・混雑発生日数

※3時間以上の待ち時間の発生日数

H29:4日間 ⇒ H30:なし



臨時バス(立山駅前)

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 早朝の営業時間拡大を継続し検討
- 滞在プログラムの検討

※繁忙期の混雑緩和に向けた その他の取組み

- 立山駅発の臨時バスの増便

06 滞在プログラムの充実

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催
- 滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参加しやすいプラットフォームを整備

TATEYAMA ECO TOURS
TATECO
立山黒部アルペンルートツアーガイドサイト「タテコ」



◎ 検討・取組状況

「立山エコツーリズム研究会」による専門ガイドツアーの充実

H30実績見込み 12ツアー(8ガイド) 66人参加

○「立山エコツーリズム研究会」専門ガイド参加要件を決定(要件)

- ★立山での登山ガイド業務歴が1年以上
- ★救命講習受講歴がある 等

○ガイドの質の維持向上

- ・ポータルサイト「TATECO」等にツアー参加者からの体験談を掲載し、ガイドへフィードバック



モニターツアー
立山信仰プログラムの様子



モニターツアー
室堂散策ツアーの様子

○インバウンドツアーを含めた販売に向けた取組み

ツアー分類の明確化と価格帯を設定

ツアー分類	内容	価格帯
山岳ガイド	登山ツアー	32,000円/ガイド1人
フィールドガイド	山岳エリア以外のトレッキングツアー	参加費5,000円～
観光案内ガイド	アルペンルート添乗ツアー	40,000円/ガイド1人

インバウンド向けツアーの企画・販売

- ・モニターツアー(7月)や旅行者に人気のガイドからのヒアリングを通じ、旅行者ニーズを把握
- ・外国人個人旅行者向けに、通訳案内士等が同行するアルペンルートツアーを試験販売(H30.9～、H31春から本格販売予定)
- ・現地研修により、ツアー内容の改善や、ガイドスキルの磨き上げを実施

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 立山エリアの専門ガイドの拡大
- プラットフォームのあり方 (例:ガイドが活動・参加しやすい環境とはどのようなものか)

07・08 アルペンルートの早期開業・冬季営業

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催
- 気象データなどを収集・分析。安全性や環境に与える影響などの課題や実施条件について整理し、可能性について検討



◎ 検討・取組状況

- 多くの来訪者が訪れる「雪の大谷」周辺の**気象・雪崩調査データ等を収集**
(内容)

①監視カメラによる観測

監視カメラ1台を設置し、積雪期の雪の大谷周辺の状況を映像により観測(H30.11～)

②地震計による観測

地震計3台を新設し、雪崩の発生を捉え、監視カメラによる雪崩観測を補完(H30.11～)

③観測員による積雪断面調査等

○調査期間

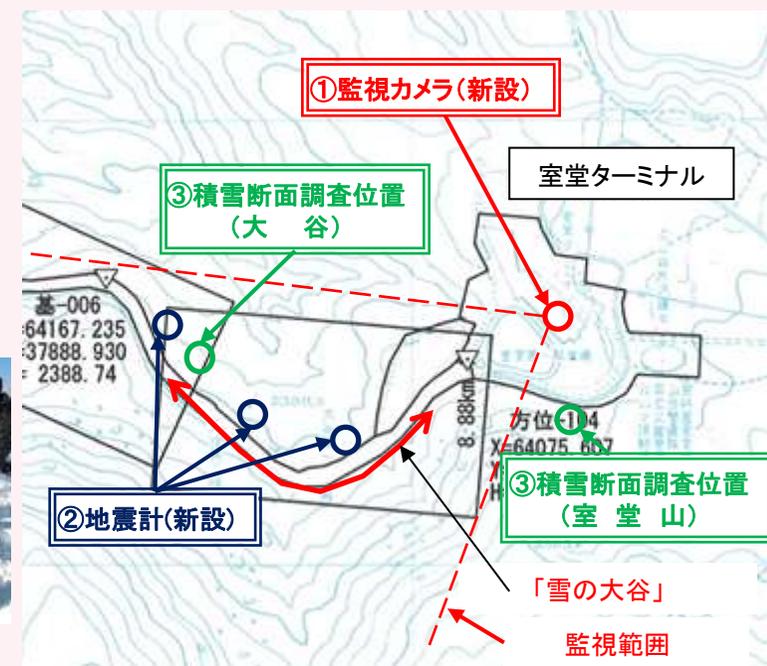
平成30年4月1日～3月31日

○積雪断面調査実施日(一部予定)

区分	4/1～5/15	11/15～30	3/18～31
室堂山	29日	1日	14日
大谷	1日	0日	2日

○収集データ

積雪断面調査(雪質・雪温・硬度・弱層など積雪のデータを収集)、日降雪量等



- 複数事業者で除雪対応することにより、**作業員の確保、熟練度向上**を図る

・ 今年の開業に向けた除雪において、1社体制から3社体制に移行

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 気象関連データを継続収集し、分析を実施

(調査スケジュール)



立山

黒部

短期

中期

WG

11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県と関西電力㈱を中心に、WGを開催しながら協議を進める。
- 旅行商品化、見学者枠の拡大等について具体的な課題整理・解決策の検討を行う。



◎ 検討・取組状況

- 関西電力と富山県との間で、「黒部ルートの一般開放・旅行商品化に関する協定」を締結（10月17日）

<協定内容の概要>

- 一般開放・旅行商品化に関する役割分担

【 県 】 旅行商品の企画および運営に関する事項について責任を有する。

【関西電力】安全確保を大前提に、電気事業に支障のない範囲で、黒部ルートの通行に関する事項について責任を有する。

- 安全対策

- ・ 関西電力は、黒部ルートの施設、設備等に関する調査を行ったうえで安全対策工事を実施。
- ・ **安全対策工事は、概ね5年を目途として実施。**

- 一般開放・旅行商品化の開始時期 **安全対策工事完了後に開始。**

- 実施規模 **年間最大10,000人。**（原則として6月～10月までにおける8,000人、天候等の条件が整った年については、最大10,000人の範囲内で設定）

- 公募見学会

- ・ 一般開放・旅行商品化の開始と同時に黒部ルート見学会は廃止。
- ・ 一般開放・旅行商品化の開始までの間、**黒部ルート見学会の実施日程の中に、土日祝日を設定する。2019年度については、7月から9月までの土日祝日のうち4日間**において実施するものとし、2020年度以降については、富山県と関西電力と協議のうえで、関西電力が決定するものとする。

<平成30年度における公募見学会の参加者決定方法の改善>

- 募集開始から参加者決定までの期間(当落不確定期間)が約1か月短縮（H29 最大約3か月半 → H30 最大約2か月半）

- 参加者決定から見学日までの期間(準備期間)が約20日間拡大（H29 平均約40日間 → H30 平均約60日間）



● 「黒部ルート的一般開放・旅行商品化」に関する説明・意見交換会を開催（11月2日）

出席者：黒部市、立山町、（一社）黒部・宇奈月温泉観光局、宇奈月温泉旅館協同組合、宇奈月温泉100年会、宇奈月温泉自治振興会、（一社）でんき宇奈月、立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、宿泊業、旅行者、JR、ANA など19名

＜参加者の主な発言＞

- ・ 2023年に開湯100年を迎える宇奈月温泉の振興につなげたい。
- ・ 観光客に宇奈月を素通りされないようにする努力・工夫が重要
- ・ 電源開発の歴史を語ることができるガイドの養成が必要
- ・ 1万人という希少価値を活かし、高めるような旅行商品づくりが重要
- ・ 荷物搬送サービス、早朝の朝食提供、イヤホンガイドなどのサービスの提供が必要
- ・ 悪天候の際の代替として、映像体験ができる施設などが必要

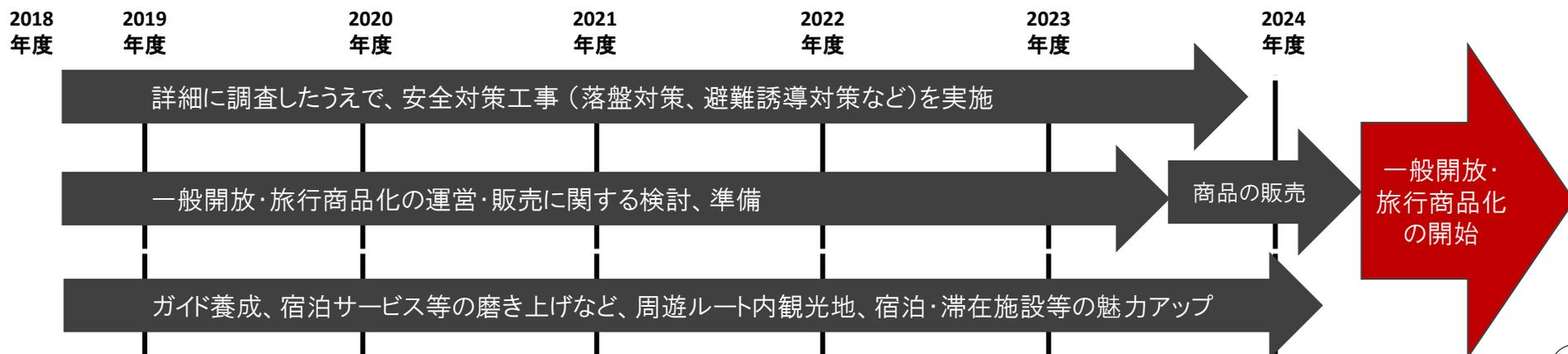


説明・意見交換会（県民会館）

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 一般開放・旅行商品化の開始に向け、実務的な検討を行う場や機会を設定し、県、市、民間の取組みを整理

（スケジュール）



立山

短期

WG

12 カルデラ体験学習会の周知強化等

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料等をもとに作成

- 富山県を中心に、WGを開催
- カルデラ体験学習会の周知強化を実施



◎ 検討・取組状況

- 現行のカルデラ体験学習会のバスコースの一部日程(9月、10月)について旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトへ掲載し、広く周知を行った。

【H29】

ツアー販売	ツアー名	ルート	催行回数	参加人数	備考
中部観光株式会社	立山カルデラ砂防体験学習会	着地型旅行商品(現地集合・現地解散)	4	85人	・往復はがき、立山カルデラ砂防博物館HPから申込み ・10日以内に参加決定通知送付

周知強化を実施

【H30】

ツアー販売	ツアー名	ルート	催行回数	参加人数	備考
JTB	長野・富山周遊ツアー(2泊3日)	1日目:東京駅ー長野県内ー大町温泉(泊) 2日目:立山黒部アルペンルートー弥陀ヶ原(泊) 3日目:立山カルデラ砂防体験ツアーー富山駅ー東京駅	1 (10/3発)	5人	
トローバス、立山カルデラ、黒部峡谷パノラマ展望ツアー	特別体験・見学ツアー(2泊3日)	1日目:新宿駅ー扇沢ー関電トローバスー扇沢ー富山市内(泊) 2日目:富山ー立山カルデラ砂防体験ツアーー富山市内(泊) 3日目:富山ー黒部峡谷パノラマ展望ツアーー糸魚川ー東京	2 (9/13発 10/18発)	44人	
VISIT富山県	立山カルデラ砂防体験ツアー	着地型旅行商品(現地集合・現地解散)	6 (9、10月 各3回)	98人	・ウェブサイト、電話から申込み ・即時参加決定 ・残り席数の確認可能
合計				147人	

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 引き続きカルデラ体験学習会の周知強化に努める

15 携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県を中心にWGを開催。まずは整備範囲を検討したうえで、通信インフラの確保も含めた課題を洗い出し、実現に向けた調査・研究を進める。

◎ 検討・取組状況

① Wi-Fiアクセスポイントの整備（4箇所）

- ・観光客の散策ルート上にある山荘のオープンテラスや、最盛期600人以上が利用する地獄谷近傍のキャンプ場などに、Wi-Fiアクセスポイントを整備
※公衆無線LAN環境整備支援事業(総務省)を活用(国1/2、県1/2)
- ・平成31年度本格供用予定

② 携帯電話基地局の整備

- ・「一ノ越～五色ヶ原」間の携帯電話不感地帯解消のため、携帯基地局を整備
事業主体：立山町 ※携帯電話等エリア整備事業(総務省)を活用
(国2/3、町2/9、事業者1/9)
- ・携帯基地局用の電源ケーブルを敷設
事業主体：県

③ 立山駅～大観峰間の商用電源供給設備整備の検討

- ・弥陀ヶ原地区への商用電源供給・大観峰側と立山駅側双方からの電源供給に向けた調査・検討を実施中



◎ 今後の検討事項

- 観光客や登山客の安全確保や利便性の観点から、着実に通信インフラの整備を進める。

16 ユニバーサルサービスの推進

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 事業者と行政が連携し、ユニバーサルサービスの推進に取り組む。

◎ 検討・取組状況

- 各事業者において、ユニバーサルサービスの推進に向けた取組みを実施

1 立山黒部アルペンルート 黒部平駅

- ロープウェイホームとケーブルカーホームを、エレベーター、専用通路、簡易スロープの設置により接続。車いすで移動が可能。
- 転落防止のため、ケーブルカーホームに、階段式ホームでは全国初となる可動式ホーム柵を設置



専用通路(H30.6)



簡易スロープ



ホーム柵

2 立山黒部アルペンルート 室堂ターミナル

- トrolleyバスホームと室堂ターミナルコンコースを、簡易スロープにより接続。車いすで移動が可能。



(出所)立山黒部アルペンルートHPより



簡易スロープ

3 富山地方鉄道 宇奈月温泉駅

- 改札フロアとホーム等を接続するエレベーター2基や多目的トイレを新設(H30.3)。高齢者や大きな荷物を持った外国人旅行者の利便性が向上。



◎ 今後の検討事項

- ・段差解消等のバリアフリー化に向けた取組みの推進
- ・Webサイトでのバリアフリー情報発信の充実 など

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第3回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料をもとに作成

- 立山ケーブルカーの現状も踏まえ、まずは立山～弥陀ヶ原区間について、ロープウェイ整備に加え、既存道路の活用も含め、新たなアクセスルートを検討。

立山ケーブルカーの代替施設のあり方

立山ケーブルカーの現状

- ①営業開始から64年が経過、②輸送力(720人/時)が限られ、繁忙期に大幅な混雑が発生、③施設の構造上バリアフリー対応が困難

立山ケーブルカーの更新

①現施設を順次更新した場合の費用

- 道床やレール、車両等の更新に約65億円

※立山黒部貫光(株)資料より

②輸送力を2倍にして更新した場合の費用

- 抜本的な改修(トンネルの拡張等)が必要であり、算出困難

ロープウェイについて

- ①ヨーロッパでは、ロープウェイは環境負荷の少ない交通手段、②輸送時間の短縮による輸送力の大幅な改善(約2倍)、③バリアフリー対応が可能

ロープウェイ整備に伴う称名滝への誘客

○称名滝駅からロープウェイを整備すれば、**日本一の落差を誇る滝の全貌を様々な角度から鳥瞰できる新たな魅力創出(誘客効果)**



①新規需要 (富山県側)

立山駅から室堂等へ称名滝を素通りしていた観光客の純増(立山駅からのアクセスや徒歩30分の大変さで断念していた観光客)

②徒歩で下から滝を眺めていた観光客の利用増 (H29.入込客数約20万人)

③新規需要 (長野県側)

長野県側から室堂で折り返している観光客を称名滝へ呼び込むことによる純増

利用増については、アンケート調査を実施

称名滝

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ②

ロープウェイからの眺望（想定ルート①「称名滝駅～大観台駅」 想定ルート②「立山駅～美女平駅」）

想定ルート①「称名滝駅～大観台駅」

■ 称名滝の全貌を様々な角度から鳥瞰できる。

称名滝駅付近

中間点付近

大観台駅手前



称名滝

大日岳

浄土山

雄山

龍王岳

獅子岳

弥陀ヶ原

称名滝と悪城の壁を眺望

上から称名滝や悪城の壁の断崖を眺望

称名滝に加え、大日岳や立山連峰、弥陀ヶ原を眺望

想定ルート②「立山駅～美女平駅」

■ 立山駅周辺(駐車場等)の印象が強い。称名滝は見ることはできない。

立山駅～中間点付近

美女平駅手前（海側）

美女平駅手前（山側）



常願寺川

立山山麓地区

大日岳

美女平

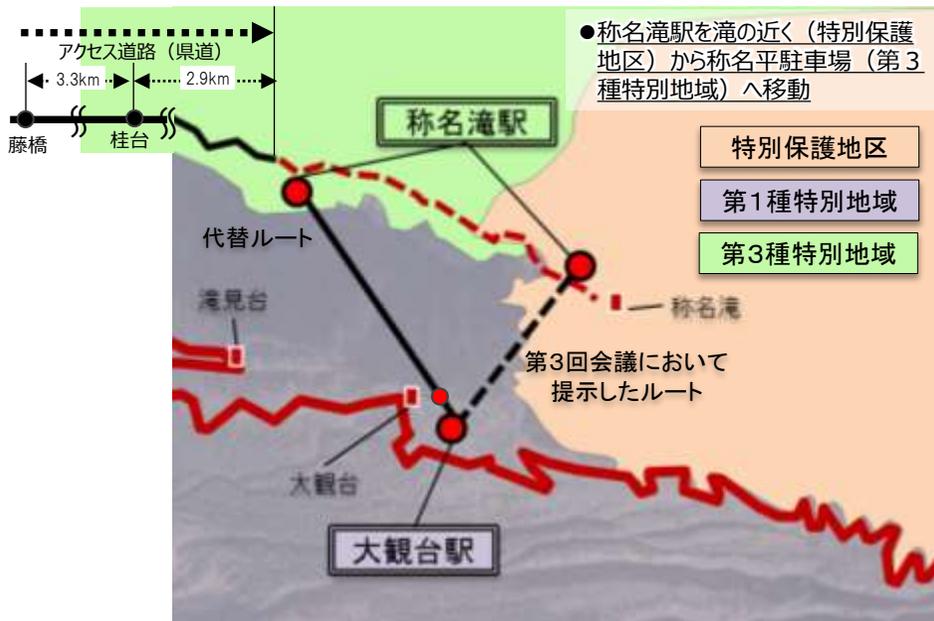
立山駅

立山駅周辺や常願寺川を眺望

立山山麓地区や常願寺川を眺望

美女平と大日岳の眺望

【ルート図(称名滝駅～ロープウェイ～大観台駅)】



ロープウェイ

整備費用：約55億円又は約65億円

	ロープウェイ ※箱型	最新型 ロープウェイ ※回転式	(参考) 立山 ケーブルカー
延長	約1.2km	約1.2km	1,366m
支柱数	1基	1基	-
搬器	2台	2台	2台
輸送量 (片道)	約1,400人/時	約1,400人/時	720人/時
整備費用	約55億円	約65億円	-

※箱型ロープウェイ(イメージ)



(出所) 安全索道株式会社HPより

※最新型ロープウェイ(イメージ)



※金額は消費税込み

称名滝駅

整備費用：約10億円



(出所) Google 画像©2018 DigitalGlobe、地図データ©2018 ZENRIN

駅への導入機能

改札・コンコース
飲食施設
コンビニエンスストア
インフォメーションセンター
テラス
バスロータリー・駐車場
建築面積 約2,000㎡
敷地面積 約5,000㎡

立山駅～称名滝駅間アクセス

整備費用：約10～15億円

- 駐車場整備・環境に配慮したシャトルバス等

大観台駅

整備費用：約25億円



(出所) Google 画像©2018 DigitalGlobe、地図データ©2018 ZENRIN

駅への導入機能

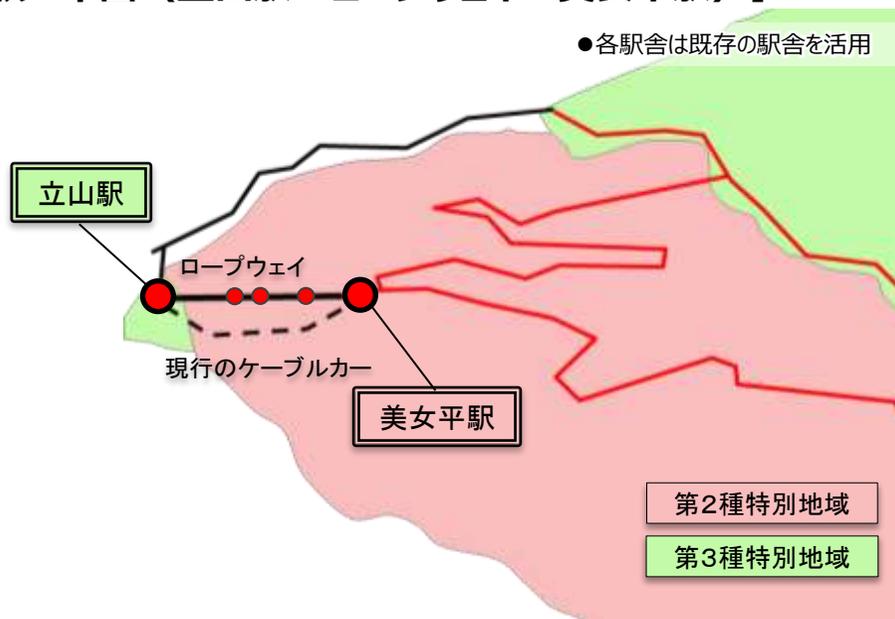
改札・コンコース
飲食施設
コンビニエンスストア
テラス
バスロータリー・駐車場
建築面積 約3,500㎡
敷地面積 約6,000㎡

その他必要となる項目

- アクセス道路(県道、藤橋～称名滝駅間)の安全対策
- ロープウェイ用の高圧電源を供給するための送電線敷設

【ルート図(立山駅～ロープウェイ～美女平駅)】

●各駅舎は既存の駅舎を活用



ロープウェイ

整備費用：約45億円

	ロープウェイ	(参考) 立山 ケーブルカー
延長	約1.2km	1,366m
支柱数	3基	-
搬器	2台	2台
輸送量 (片道)	約1,400人/時	720人/時
整備費用	約45億円	-

ロープウェイ(イメージ)
(出所)びわ湖パレィHPより

※立山黒部貫光(株)資料より

立山駅

整備費用：約6億円



(出所) Google 画像©2018 DigitalGlobe、地図データ©2018 ZENRIN

●既存駅舎を活用、新たな整備は
ロープウェイの乗降場のみ

駅の改修内容

現駅舎とロープウェイ乗降場を結ぶ連絡通路の設置(エレベーター、イスカレーター等の設置含む)

既存建物の解体・移設

現駅舎の改修
(改札、通路等)

※駐車場の再整備について

- 乗降場想定位置には、現状において職員駐車場が約30台分整備されている。
- ロープウェイ敷設後においても、同規模の駐車場を別敷地にて再整備する。(既存の駐車場の整地等に対応)

※立山黒部貫光(株)資料より

美女平駅

整備費用：約6億円



(出所) Google 画像©2018 DigitalGlobe、地図データ©2018 ZENRIN

●既存駅舎を活用、新たな整備は
ロープウェイの乗降場のみ
●地下埋設物の移設が必要

駅の改修内容

現駅舎とロープウェイ乗降場を結ぶ連絡通路の設置(エレベーター、イスカレーター等の設置含む)

地下埋設物の移設

現駅舎の改修
(改札、通路等)

※立山黒部貫光(株)資料より

20 宇奈月温泉街の賑わい創出

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 黒部市を事務局とした「宇奈月温泉まちの未来創造モデル事業実行委員会」が中心となり、温泉街の魅力向上と環境整備を推進

◎ 検討・取組状況

● まち歩きしたくなる環境整備

- ・ 温泉街のライトアップ事業(※)

夜間のまち歩きポイントの魅力アップのため、
柔らかく温かみのある暖色系の色調の照度・
色合いで統一した照明(街路灯等)に改修

- ・ 観光案内板リフレッシュ事業(※)

初めて訪れた観光客等に分かりやすくするため、既存の案内看板
を統一したデザインにリフレッシュ(30年度に実施予定)

● 美しい景観の形成

- ・ 旅館ホテル等景観形成事業(※)

旅館ホテルの入口や玄関先の夜間景観を柔ら
かく温かみのある暖色系の色調の照度・色合
いで統一
個々の旅館ホテルが夜のまち歩きポイントとなる
よう整備



街路灯



暖色系の色調でライトアップ



月をモチーフとしたイルミネーション



雪上花火大会

(※) まちの未来創造モデル事業

・ 旅館協同組合、黒部峡谷鉄道、市等で構成された実行委員会で策定され
たまちづくり計画に基づく、まちなかの賑わい創出に向けた取組みを支援
(県1/2補助)

● 宇奈月温泉の冬を楽しむイベントの充実

- ・ 宇奈月温泉の冬の夜を楽しむ雪のカーニバルに、イルミネーション
やライトアップ等の幻想的な楽しみを付加
- ・ 温泉街や各旅館で「月」をモチーフとした飾りつけを実施し、100個
の名月に出会える風景を創出する、宇奈月温泉100名月物語の実
施(※)
- ・ 宇奈月温泉街で花火を打ち上げる雪上花火大会を、平成30年冬か
らは毎週土曜日実施

◎ 今後の取組予定・検討事項

- 開湯100年(2023年)や、黒部ルート的一般開放・旅行商品化の開始(2024年)等も見据えた、宇奈月の魅力向上

21 登山道の整備

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県を中心に、WGを開催。
- 案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道のクオリティアップを実施。
- 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルートの構築について検討。



悪天候でも視認しやすい黄色のアイキャッチ



植生に配慮の上、歩行者がすれ違いやすいよう複線化

◎ 検討・取組状況

※第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《これまでの会議・WG等での主な意見》

- ・登山道等は、**順次再整備**が必要
- ・歩くアルペンルートに緊急時の途中待避、避難経路を示す**標識整備が必要**
- ・欧米を中心に外国人登山者も増加しており、**安全対策の検討も必要**
- ・立山には古くから多くの登山客が訪れており、一般の観光客だけでなく、**登山を楽しむ方々に向けた取組みも重要**

1 登山道等の整備は、国の直轄事業や交付金を活用するなど、**計画的に実施**

- ・登山道の整備（歩くアルペンルートの整備）・・・【H30実績：千寿ヶ原弘法線ほか5路線3,105m】
- ・案内看板、道標の整備（英語併記やデザインを統一）・・・【H30実績：歩くアルペンルートで3箇所整備】
- ・木道の新設、再整備（植生の踏み荒らしを防止）・・・【H30実績：黒部湖五色が原線ほか2路線678m】
- ・環境配慮型トイレの整備（土壌処理循環型等）・・・【H30実績：スゴ乗越小屋】

2 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」について、**当時の情報収集**

- ・当時を知る人や立山弥陀ヶ原・大日平学術調査団から聞き取り
- ・「弥陀ヶ原～大日平総合学術調査」に同行し、現地確認

3 「安全登山検討会」の開催

- ・全3回開催（第1回：6/6、第2回：8/31、第3回：11/1）
- ・検討項目（登山届、情報発信、普及啓発、登山道整備、山岳診療体制、救助体制等）



環境配慮型トイレ

◎ 今後の検討事項

- 登山道等の整備予算の確保、優先順位をつけ**計画的に整備**
 - ・効果的、長寿命化対策に対応した整備方法の検討
- **安全登山検討会の検討結果を踏まえ取組みを推進**

【今後の取組みの方向】

- ① 登山前の安全対策、登山中の危機回避対策、遭難時危険回避対策の三局面に応じた推進
- ② 遭難多発層や遭難の態様の特徴を踏まえ、ターゲットを明確にした対策の推進
- ③ 通信環境の整備、多言語による各種情報提供など訪日外国人を含む増加する登山者への対策の推進

立山

黒部

短期

WG

27 とやまのライチョウサポート強化、 生息状況調査

22 環境意識の啓発 24 外来植物除去活動の推進

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 本県のライチョウ保護活動を広めるため、各県のサポート隊との連携を検討。
- 本県のライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査等を行い、保護活動の基礎情報とする。



薬師岳で観察されたライチョウ



薬師岳での調査状況

◎ 検討・取組状況

※第1回、第2回WGにおいて検討

《これまでの会議・WG等での主な意見》

- ・ 立山は、ライチョウや植生など、環境保全の研究が進んでいる。
- ・ 立山のブランド化には、環境保全の調査、研究を進めていくスタンスが必要。
- ・ 保全と利用を一体的に考えながら、外来植物除去活動をさらに推進すべき。

1 ライチョウが安定的に生息しているか、 定期的に生息数調査を実施

- ・ H30薬師岳での調査結果から、**安定的に推移**していることを確認。

2 県民協働ボランティアによる木道の 滑止め板設置、外来植物除去

- ・ 滑止め板設置等に82人が参加。(外来植物除去活動666名)

3 ジュニアナチュラリストの養成

- ・ 自然に関する講義や実地研修を開催し、34名を養成

立山	朝日岳	薬師岳
S47: 267羽	S48: 42羽	S49: 81羽
H3: 333羽	H6: 56羽	H5: 149羽
H23: 284羽	H23: 44羽	H22: 113羽
H28: 295羽	H29: 42羽	H30: 101羽



滑り止め設置



ジュニアナチュラリストの養成

◎ 今後の検討事項

● 日本一のライチョウ王国の永続

- ライチョウ王国とやま発信事業による普及 ○立山ライチョウ生態調査の継続
- ・ 上野動物園などで普及、第4次とやまのライチョウサポート隊活動の実施

● 自然環境保全に係る継続的な取組みの推進

- 県民協働での取組みの推進 ○ナチュラリスト、ジュニアナチュラリストの活動支援や連携、養成など



上野動物園での解説

28-2 火山対策

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 改正活火山法(H27.12施行)に基づき、平成28年2月、県、富山市、上市町、立山町が火山災害警戒地域に指定
- 平成28年3月に法定の「弥陀ヶ原火山防災協議会(会長:知事)」を設置し、防災対策を協議・検討
(火山活動の調査研究(富山大学委託)や啓発チラシ等の作成)
- 平成28年12月に弥陀ヶ原が気象庁の常時観測火山に追加

◎ 検討・取組状況

※弥陀ヶ原火山防災協議会において検討

【弥陀ヶ原火山防災協議会】 火山現象ごとにその影響が及ぶ範囲を描画したものの第4回協議会(H30.8.1)において「**弥陀ヶ原火山ハザードマップ**」を了承

○噴火の想定

過去1万年の噴火等を参考に、小規模と大規模の水蒸気噴火をシミュレーション

○大きな噴石の影響

小規模噴火(5万 m^3):地獄谷の中心から概ね**1.5km**の範囲

大規模噴火(500万 m^3):地獄谷の中心から概ね**2.5km**の範囲

【官民協働による噴石対策の推進】

噴石対策の**国補助金が山小屋等の民間施設に拡充**(H30~:雷鳥荘が全国初)

○負担内訳 国:3/10、県:3/10、町:3/10、山小屋:1/10

○事業内容 アラミド繊維等を活用した噴石対策工事



雷鳥荘の補強工事のイメージ

◎ 今後の検討事項

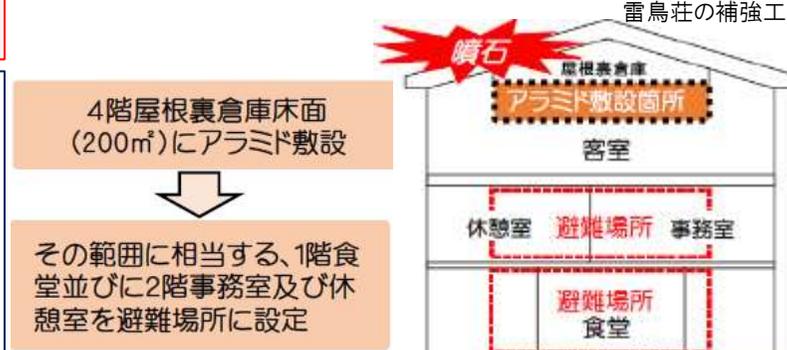
噴火活動に応じた入山規制や避難等の防災対応

・弥陀ヶ原における噴火警戒レベルの設定(平成30年度)

避難場所、避難経路、避難手段等を示したもの

・地域防災計画の改正、避難計画の検討(平成30年度~)

・火山防災マップの作成(平成31年度~)



各プロジェクトの進捗状況

- ① 具体的な取組に着手しているプロジェクト(16プロジェクト)
 ② 課題解決に向けた情報収集・検討を行っているプロジェクト(7プロジェクト)
 ③ 課題整理を行っているプロジェクト(4プロジェクト)
 ④ その他(1プロジェクト)

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況
01	混雑スポットにおける 食事・休憩スペース拡充	立山黒部 貫光(株)		短期	① 室堂ターミナル屋上に展望休憩スペースを試験的に設置(H30.7～)。併せて、ホテル立山内のティーラウンジりんどうにおいてテイクアウト販売を実施。 黒部平駅の屋上展望台に、休憩スペース「黒部平パノラマテラス」を設置。(H30.7)
02	アルペンルートの 営業時間拡大	立山黒部 貫光(株)	○	短期	① 日の出時刻の早い繁忙期(梅雨明け～お盆)に、現行の交通規制の範囲内で、営業時間の前倒しを試験的に実施(立山ケーブルカー 2日間、E-SORA「立山パノラマバス」4日間)。
03	乗車整理券の配布	立山黒部 貫光(株)		短期	② 立山黒部貫光において、課題整理のうえ具体的な進め方を検討中。 乗車整理券の配布や館内でのアナウンスなどの仕組みづくり、Webシステムの構築等について対応を検討。
04	高原バス等の WEB予約システム	立山黒部 貫光(株)		中期	②
05	既存宿泊施設の高付加 価値化、ハイグレード宿泊 施設の整備	立山黒部 貫光(株) 富山県	○	中期	② 既存宿泊施設の高付加価値化に向け、各施設ごとの特徴や強みを整理中。 ハイグレードな宿泊施設の整備のための支援制度(「立山黒部」ホテル・旅館ハイグレード化促進事業)を設け、新築・改築を希望する事業者を支援。
06	滞在プログラムの充実	立山黒部 貫光(株)	○	短期	① 専門ガイド参入要件の決定や、ガイドの質の向上維持、インバウンドツアーを含めた販売に向けた取組みなどを「立山エコツーリズム研究会」において実施。
07	アルペンルートの早期開業	立山黒部 貫光(株)	○	中期	② 早期開業・冬季営業の可能性を検討するため、監視カメラや地震計による雪崩等の観測や観測員による気象データの収集を実施(H30.11～)。気象データを継続収集し、分析を実施。
08	アルペンルート冬季営業の 試験的实施	立山黒部 貫光(株)	○	中期	②
09	黒部峡谷鉄道の冬季営業	黒部峡谷 鉄道(株)	○	中期	③ 冬季の黒部峡谷への誘客を図るため、昨年度から実施している「トロッコ電車運転体験会」を今年はプレミアム感を付加して実施(H30.12.22～毎週土日祝)。 冬季営業には安全性等の確保が課題であるため、今後、必要な対策(スノーシェッド等)にかかる費用の算出や冬季期間に実施している車両整備業務との人員調整について検討中。

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況
10	ヘリスキーの企画・実施	富山県		中期	③ 課題整理に向け、ヘリスキーの実施を希望する事業者の情報収集を実施。
11	黒部ルート見学会の 一般開放・旅行商品化	富山県	○	中期	① 富山県と関西電力の間で、一般開放・旅行商品化に関する協定を締結(H30.10.17)。一般開放・旅行商品化に関する説明・意見交換会を開催(H30.11.2)。
12	カルデラ体験学習会の 周知強化等	富山県	○	短期	① 現行のカルデラ体験学習会のバスコースの一部日程(9月、10月)について旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトへ掲載し、広く周知を実施。
13	新しいマーケット(欧米豪 等)での認知度向上	富山県		短期	① トリップアドバイザーと連携し、富山県特設サイトの開設や、バナー広告の配信による同特設サイトへの誘導を図るとともに、トリップアドバイザーへの登録方法や活用術等に関するセミナーを開催。
14	多言語表記・案内の充実	立山黒部 貫光(株)		短期	① 黒部湖駅、室堂ターミナルに、デジタルサイネージを設置、稼動(H30.4～) 立山駅に6ヶ国語のアルペンルートビジターズガイド(外国語パンフレット)コーナーを新設
15	携帯電話不通エリア、 WiFi未整備エリアの解消	富山県	○	長期	① 室堂及び地獄谷周辺のWi-Fiアクセスポイント整備や、一の越～五色ヶ原間の携帯電話不感地帯解消のための携帯基地局の整備、弥陀ヶ原地区への商用電源供給に向けた調査・検討を実施
16	ユニバーサルサービスの 推進	富山県		短期	① 黒部平駅における専用通路等の設置や、室堂ターミナルの簡易スロープ、宇奈月温泉駅(富山地方鉄道)のエレベーターや多目的トイレの設置など、各事業者においてユニバーサルサービスの推進を実施中。
17	立山～弥陀ヶ原 ロープウェイ	富山県	○	中期	②
18	立山カルデラロープウェイ	富山県	○	長期	③
19	黒部峡谷ロープウェイ	富山県	○	長期	③

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
20	宇奈月温泉街の賑わい創出	黒部市		短期	①	まち歩きしなくなる環境整備として、温泉街のライトアップや旅館ホテルが夜のまち歩きポイントとなるよう景観形成に係る整備を実施。
21	登山道の整備	富山県	○	中期	①	国の直轄事業や交付金を活用するなど、計画的に登山道を整備。 H30は、中高年登山者や外国人観光客が増加している現状を踏まえ、新たに「安全登山検討会」を開催し、安全対策や利便性の向上について検討を実施。
22	環境意識の啓発	富山県		短期	①	H30は、ジュニアナチュラリスト34名を養成。 県内5ヶ所において、ナチュラリストの解説活動を実施。
23	山岳トイレの整備	富山県		短期	①	国の補助金も活用しながら、順次、環境保全に配慮したトイレを整備。 H30は、スゴ乗越小屋を整備。
24	外来植物除去活動の推進	富山県		短期	①	県民協働ボランティアによる継続的な外来植物除去の活動を実施。 (H30は、17団体666名が参加。)
25	利用調整地区の導入の検討	富山県	○	中期	④	ライチョウの保護のため、立ち入りには事前にレクチャーを行うなど、生息域の環境保全に向けた取り組みを既に実施しており、当面、具体的検討の必要性は低い。
26	環境保全経費の受益者負担の在り方の検討	富山県	○	中期	②	庁内関係課による勉強会、関係者等からの聞き取りを実施。登山者の動向について研究。 引き続き、徴収の性質、確実性、コスト等について検討を進める。
27	とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査	富山県		短期	①	H30は、第3次サポート隊106名が活動。薬師岳の生息状況調査を実施。 5/26、27には上野動物園において、本県のライチョウ生息状況や保護活動を紹介した。
28	雪崩事故対策	富山県		中期	①	入山指導員による指導等を実施。H30は新たな取組みとして、GWと11月下旬に立山駅での入山指導を実施。 引き続き、入山安全指導窓口での指導や、雪崩危険情報の提供を行う。
	火山対策	富山県		中期	①	弥陀ヶ原火山防災協議会において、「弥陀ヶ原火山ハザードマップ」を了承(H30.8) 民間施設(山小屋)の噴石対策工事に対し、国庫補助金を活用し支援。